

サロン・あべの

サロン・あべのNO. 13

昭和62年7月18日(土)発行

結婚は、障害の有無に関係なく、人生を左右する大きな問題である。まして、身体的ハンディキャップをもつ人にとって、結婚生活を維持していくことは、並大抵のことではないが、創意工夫することでカバーすれば、身体的ハンディーはそれ自身障害にならない。と、皆で話し合った先月の出合いにつづいて、今月は、田中逸郎氏にお願いして「結婚―その出合い―」を語ってもらった。会は、井上憲一氏の司会で進められ、参加者十八名の人たちは実例を

結 婚

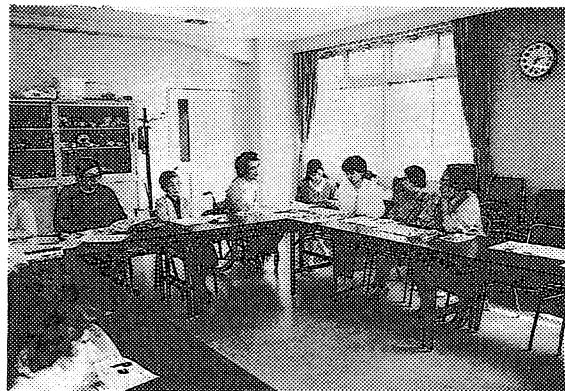
―その出合い

交えての熱弁に聞き入った。講演のあと、いろいろな角度から結婚について語り合った。

積極に勝るものなし

結婚は、人間の一生涯のなかで最も大きな人生の節のひとつであり、その人の自立と人格的な発達に大きく関わるものです。そしてそのことは、健常者であっても障害者であっても同じです。身体に障害のあるということは、

一つの大きな悪条件であることはいうまでもないことではありますが、「心」まで障害をもっていたのでは、より自分自身が苦しみを増す以外に何の得るところもなほと思えます。結婚するということも、大きく人生を左右する大問題であり、それは



男性も女性も、健常者も障害者も全く変りはありません。よって結婚するためにはそれなりの心がまえも必要であろうし、また諸々の条件などもそれぞれにあらうとは思いますが、ご当人はもとより家族も、お互いの立場（身体障害もふくめて）を理解しあうことも絶対に必要であることはいうまでもありません。

結婚するためには、まず自分の意志をはっきりとさせておくこと。ある程度の生活能力をもっていること、特に男性の場合には親の資力や財力に頼らないことが大切であらうと思います。

女性の場合には、ともすれば自分を悲劇のヒロインにしたがる傾向が多くみられますがそのような「心」の病いは完治しておくことが結婚後の家庭生活を続けて行くうえに欠くことのできないことではないでしょうか。



■ 田中逸郎氏

大阪身体障害者団体連合会 事務局長
こだま会（大阪府立身体障害者福祉センター
同窓会）会長
大阪府身体障害者相談員
両下肢マヒ（障害等級2級）
大学と高校へ通う2人の娘さんと4人家族

また、ご家庭の方々は、必要とする場合には手を差しのべるとしても、当事者たちの人格や意志は絶対に尊重すべきであり、新しい家族が構成され、二人が力を合わせて社会的に自立をしていくのを遠くから見

お知らせ

△サロン・あべのV八月の出会い

日時 昭和六二年八月二三日（日）

午後一時～九時

場所 工芸高校グラウンド内（阿倍野区役

所裏、地下鉄昭和町駅北十分）

内容 「あべのカーニバル」に出店販売

お遊びに、お買い物に、来て下さい。

皆様のご来店をお待ちしています

問い合わせ先 ☎ 06-691-11028

富田慶子

日々のよろこび添えて

サロン・あべのに贈るリ灯リ

六月のカンパ合計二千四百円

ありがとうございました。

守ってあげていただきたいと思いま
す。二人の城は二人で築き、二
人で新しい家庭を造っていく、いわ
ば小鳥の巢造りにも似た過程が結婚
生活であり、家庭生活であり、社会
人としての自覚と責任の上に立って
行動していただくの自信につながる
のではないでしょう。親兄弟の同
情は一見温かいように見えても、そ
のことが逆に、先になってから身障
者本人の自立心を失わせるものであ
るとすれば、本当の愛情とは言えな
いのではないかと私は考えます。

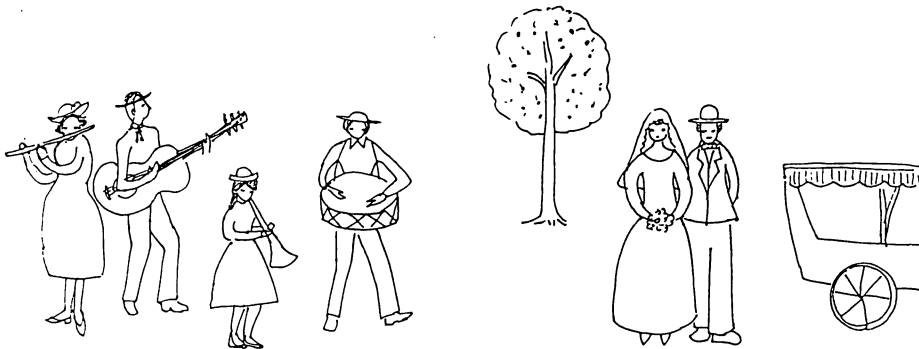
ともすれば縁遠いことや、働く場
のないことを身体的障害のせいや社
会のせいのみにしたがりがちな人々
を見かけますが、重度の障害をもつ
人たちであっても、自分の努力と工
夫で立派に社会の第一線で活躍し、
幸福な家庭を築いておられる方々は
数多くおられます。その人たちは身
体的障害は重くても「心」の障害と
もいえるリひがみりやりねたみりを
もたないで、自らも明るく、周囲の

人たちをも明るくするだけの人間性
をもっているといえるでしょう。

障害者スポーツの創始者ルードイ
ツヒ・グッドマン博士の言葉にリ失
ったものは数えるな、残されたもの
を最大限に生かせリとあります。こ
の精神はスポーツだけでなく、身体
障害者がそのハンディを克服して社
会活動を行ってゆく上にも必要なこ
とであります。

あらゆる機会をとらえて、友人を、
知人をふやすこと、仕事にも遊びに
も全力を尽くすこと、そして、グル
ープ活動にもできるだけ積極的に参
加して、相手を見つげる機会をより
多く作ること、そして相手の良いと
ころを見つげるとともに自分の欠点
を見直して反省すること、常に明る
いこと等々が、身体障害者の結婚に
結びつくものであろうと思えます。

※「恒久救済」に掲載された氏
の文章と合わせて今日の講演内
容をまとめさせていただきますし
た。



ホルトガールのいなかの結婚式

ときめいて

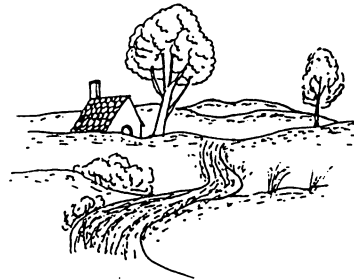
いろいろな出会いがあります。どの出会いも新鮮でときめきがあります。どれも出会うという能動性をもってはじめて、みのりある出会いができるのでは…。

チャンスのときが 適齢期

富田慶子

女性障害者にとって結婚とは高根の花？と問えば、たいがい人は、否定して「気の合う良い人がいれば、すればよい」と言われる。重度の人でも結婚されている人は同じようなことを言う。

しかし、幼い頃より、障害を持っていて人に「○○ちゃんは、大きくなったら何になるの」「××くんのお嫁さんになる。」と言う会話が有ったでしょうか。又、年ごろになって雑誌の花嫁姿の写真特集などを見て、これが良いの、悪いのと好きかってに批評する楽しみが有ったでしょうか。皆無とは、言わないまでも後ろめたいものをひきずって、その場に居たのではないでしょう。結婚という言葉には、あこがれていても、結婚の実生活を具体的に考える姿勢は、周囲に対してはばかれる思いがしている間に歳月は、素早く通りすぎており、気が付けばある程度の歳になっている。そして、もうこの歳ではとあきらめが勝とうですが、そういう方は、過ぎ去った歳月を振り返ってみて下さい。自分がその気にさえなっておれば、掴めるチャンスが有ったことに気がつかれることでしょう。その結果が、良かったか、悪かったかは掴んだ者



しか解りませんが、その時々自分で棍を振って進んできたのでは、ないでしょうか。そこに自信を持って生きたいものです。

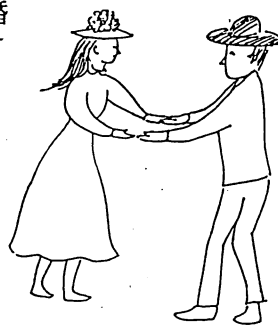
一般的には、適齢期が有るようですが、今はシングルライフを求めて、より自由な生活をエンジョイしたい時代とも言われています。結婚するも、しないも自分で選択しての人生です。自分の相手は、いないのではなくて、巡り合える機会が、有るか、無いかが、早いのか、遅いか、の違いではないでしょうか。

結婚生活とは、二人の経済的安定と精神的安定が有ってこそと聞いています。そのバランスをとる中点を支えるのが、二人の愛情だと思えます。

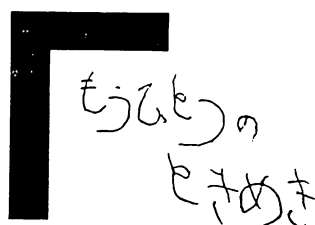
あせらず、臆さず、あきらめず、その日がくるまで青春を楽しみ、豊かな人間性と深い愛情を育まれますように。

「約束結婚」

山本篤江



前回のサロンの話し合いの時にチラッと出たと思いますが、結婚という型をとらないで、お互いの生活を大切にして、会いたい時に会うという関係、そくに言うお茶飲友達です。ですから、結婚とは、ほど遠いかもしれませんネ！
でも、これもお互いの気持がピッタリ合っていないと、結婚の型をとるよりも長くつづけていく事は、むずかしいでしょう。又、不可能かもしれません。
一人だったら、なんとか自立していたのに結婚すると、どうしてもボランテアの



信州での出会い

平野祥子

山好きの私にとって 信州は、大好きな場所です。
今回の旅は、朝日旅行会のツアーで友人と二人で行ったのですが、一泊二日あっ…と言うまに終わりました。



カット：平野祥子

「信州での出会い」と言うタイトルなのですが、水芭蕉との出会いと言うのが、良いかもしれない。念願の水芭蕉の花は、自然園の森の中深くの湿原に、可憐な白い花びらを咲き競っていました。冬の厳しい所では、春を待ちわび、より美しく咲くのでしょうか。

ホテルでの夕食の時、隣の席の御夫妻から、あまごの塩焼の食べ方を、おそわり印象に残っています。

又、訪れたい 鬼無里村・奥裾花自然園でした。

あまごの食べ方

- ①はしで 両側から押える。
- ②しっぽを切る。
- ③頭からひっぱる。

手を借りなければならなくなった友人も知っています。その友人は、十年間付き合っていてお互いの生活をしていて、すごく仲のいい関係がつづいていたのに、やっぱり結婚でいいのかな。本人がよかって周りも許さないのかわかりません。やっぱり普通ではないですものね。
くれぐれも、まちがわないでください。愛人とか、不倫とかとは、別の物なんですよ。
内容が課題とは、少しちがうと思います。が、これで ガマンして下さい。

「サロン・あべの」の編集部の方から、「ピア・カウンセリングについて書いてほしい」という要望をいただいたときには、ずいぶん難しいテーマだなと思いました。

ピア・カウンセリングという言葉自体、知っているのは、福祉の仕事に専門にやっている人のなかでもかなり少ないでしょう。辞書にものっていませんし、私の手元にある一千ページの心理学事典にも、そんな項目はありません。福祉や心理、医療にかかわるごく一部の人たちが、ある種の共通の考え方をもち、このような言葉を使っているのだと思います。

ピア（peer）というのは「同等の地位の人」という意味ですが、あとにカウンセリングという言葉をつけるときには、同じような境遇にある人とか、同じような悩みをもつ人という意味がでてきます。

カウンセリングは、従来からカウンセラーという専門的教育を受けた人によって行なわれてきました。カウンセリングは、厳しい訓練を受け、多くの知識と技術を身につけた人だけができることだと考えられてきたのです。

そういった考え方は、基本的には今でも変わってはいません。しかし、カウンセリングの一般的レベルも高度であり、カウンセラーの社会的地位も高い米国などでは、専門的訓練を受けたものだけにカウンセリングが可能であるという考え方には、一定

ピア・カウンセリング



の限界と欠陥があることに気づきはじめてようです。

そこで出てきたのが、ピア・カウンセリングという考え方です。これは、同じような立場にある人で、ある程度その問題を解決した人が、もっとより深刻に悩んでいる人の相談相手ができるのではないかという発想なのです。そういう考え方を基にしてアメリカでは障害者福祉センターの相談員に障害者を採用することが多いようです。考えてみれば、当たり前のことかもしれない。しかし、そこには多くの落とし穴

があるのです。例えば「同類相哀れむ」式の慰め合いになってしまったり、全く問題解決の糸口が見つかからないことがあります。また、自分自身がやってきた方法を絶対に正しいと信じて、相談にくる人みんなにそれを押しつけてしまう人がいます。

「サロン・あべの」は、ピア・カウンセリングの機会に非常に恵まれたグループでしょう。ピア・カウンセリングには、多くの長所もありますが、短所も少なからずあります。それについて語りあっているかが、でしょうか。

(知)

THE DEAF MUTE 4

旭 純 子



ろうあ者の家庭生活をめぐる問題点として、さらに極端な例では、遺伝についての誤解や育児上の困難等の不安から子供を生まないよう親に強制された事例もある。これは、年頃のろうあ女性が両親に勧められ受診したり、盲腸の手術のついでに不妊手術を受けさせられて結婚後にわかった例等、筆者自身も耳にして知っているが、ろ

うあ者を子供にもった親の人情がなせる業とはいえ、自身の人生の一大事に関する決定までも「ろうあ」であるが故に自らなし得ない。させてもらえない、というようなことは、この例に限らず、ろうあ者である以前に「人間としての権利」に関わる重大な問題であると言わねばならない。

さて、人間は家庭生活を基盤として学校、職場、趣味活動等、様々な社会集団に属して生活している。集団の一員である個人にとって、他の成員との関係を形成し、維持するためのコミュニケーションの確保は、個人が社会の一員として生活を営む上では不可欠の要素である。ところが、ろうあ者はコミュニケーション面で著しい障害を有するため、社会生活においても重いハンディキャップを負っている。そこで次回よりろうあ者の社会生活における問題点について、医療面、教育面、労働面、文化面、その他について考察してゆきたい。

プロフィール



辻本輝子さん

誰もが「辻本さん、障害者!？」と思う程、かぎりなく健常者に近い。サロンの進行中、明るく、よく通る声での発言は、パッと注目させると同時に、ひきしまる思いにさせる。洋装店の婦人服仕立をされており、洋裁はベテラン。ご自分の着こなしにも、表れている。

車の運転が出来、ハサロン・あべのVに
とっては、唯一の機動力。昨年の「あべのカーニバル」参加の時も、寄贈品の収集や販売品の会場への搬入等、大活躍をしてくれた。

今年も、その季節を迎える頃となり、お願いしまーすと甘いエールを送ります。

梅雨空晴らすストライク

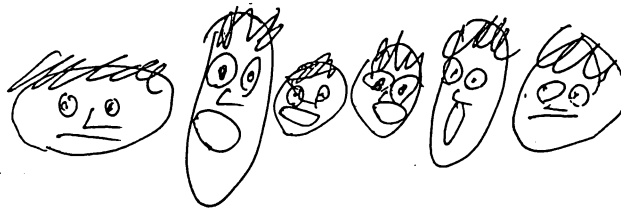
「わがまち」ボーリング大会

「わがまち」発刊五周年を記念してボーリング大会が、昭和町のポウルカスタムで、六月二十日（土）午前十時から開かれました。サロン・あべのから四名参加。大いに楽しみました。

おすな おすなの大盛況

たんぼぼ作業所バザー

六月十四日（日）十時西六商店街の阿倍野たんぼぼ作業所前は、人々人でいっぱい。本職の縁日も顔負けの品揃えと、前景気のよが効を奏し、人が人々を呼んで第一回たんぼぼバザーは、地域の人たちとのふれあいもなつて大成功。



——ミニ手話教室——

田中逸郎さんの指導で、男（親指）と女（小指）が中央で会えば結婚。男の方へ女の方が寄れば嫁に行く。逆に女の方へ男の方が寄れば養子。

親指を曲げるとおじいさん。小指を曲げればおばあさん。など親指と小指で、今日のテーマに因んだ手話を習う。

編集後記



障害者の相談員をされている関係上結婚の相談も受けられ、また、仲人を務められることもあるという田中氏の今日の話。正に経験がいわしむる説得力がある。今回は「結婚——その出会い」ということで、結婚後に出てくる諸問題、つまり、家事、育児、近隣とのつながりなどにも、話を拡げていただいたが、これらの項目については号を改めて、本紙面で紹介したいと思う。

六月二十日（土）の出会いのときに、金子花江さんと阪田富子さんからお茶菓子をいただきました。ご馳走さまでした。